



木曾義仲挙兵の地

信州上田・丸子

義仲公は依田城で挙兵

4年に一度の義仲祭り

平成十七年から四年に一度開催している「信州丸子義仲祭り」は、義仲挙兵武者行列や史跡巡りなどのイベントを開催しています。

木曾義仲公は、平安時代末期の治承四年(一一八〇年)、後白河法皇の皇子である以仁王の呼びかけに応じ、信濃で挙兵し、北陸、京へと兵を進め平家を追討した武将で、源頼朝、源範頼、源義経の従兄弟にあたります。丸子地域の御嶽堂地籍の依田城を拠点に挙兵したと伝えられています。今から八四二年前になります。(二〇二二現在)

丸子に史跡が多く存在

木曾義仲公は、丸子地域の豪族である依田氏、丸子氏、長瀬氏が迎え入れ、丸子地域に逗留しながら挙兵の準備を進めていました。

丸子に逗留していた約二年半、依田城跡、義仲の館跡、そして義仲公に仕える女性武者・巴御前のお歯黒の池など、木曾義仲公にまつわる史跡等が多く存在しています。(中面の地図参照)

地元に根付く伝承活動

地元で活動されている「木曾義仲信州丸子会」ではこれまで、義仲桜まつりや、義仲ゆかりの史跡整備、史跡の案内などの伝承活動に取り組んでいます。



木曾義仲から真田幸村への系譜 「日本一の兵」二人が拠点した東信濃・上田地域

大坂夏の陣で徳川方の本陣に迫り、家康を自刃寸前まで追いつめたという真田幸村。その戦ぶりは「日本一の兵」と評され、後世に語り継がれている。そんな幸村から約四百年さかのぼった平安時代末期に木曾義仲は活躍。平家を衰退させ、武士の頂点・征夷大将軍へと駆け上がった。鎌倉方の源範頼・義経軍との戦では、五万ともいう大軍に一千ほどの兵力で立ち向かい、義仲・今井兼平主従二騎になるまで奮戦。散り際まで鎌倉軍を苦しめた義仲もまた、「日本一の兵」といえるだろう。両者には、いくつかの共通点がある。一つには、上小地方を拠点にしたこと。幸村は、真田地域の小豪族から戦国大名まで駆け上がったという真田一族なので、木曾から移ったという義仲とは拠点化の経緯は異なるが、この地から歩み出し、全国に武勇の名を轟かせた点は同じである。もう一つ、少ない兵力で数倍、十数倍もの大軍を打ち破っている点も共通する。

不利な戦いにおいても知略の限りを尽くして、立ちはだかる強敵を打ち負かす縦横無尽な軍略を揮ったことが、両者の真骨頂ともいえるのだ。いうまでもなく、その共通点は、この地にまず木曾義仲という勇将が存在し、「寡兵よく大敵を破る」の史実を残したからこそ生じた。まさしく歴史は繰り返したのである。また、真田一族に血縁があるという海野氏は、木曾義仲の重臣。治承・寿永の乱を生き抜いた海野小太郎幸氏が、鎌倉御家人として頼朝に重用され、東信濃から上州西北部までの広大な範囲を支配したことが、最終的に真田氏の繁栄につながっている。幸氏が頼朝に認められたのは、義仲の長男・義高に忠誠を尽くしたことなどが評価されたからだといわれる所以、義仲・義高なくして海野一族の隆盛は、あり得なかったことになるだろう。義仲と真田氏、そして幸村は、海野氏と深く結びついていたことに、大きな共通点を見出せるのである。

真田忍者へと連なる義仲軍の忍術

物語『真田十勇士』が記す真田氏の優れた忍術使いは、とても有名だが、モチーフと見られる忍者・出浦対馬守や横谷左近・庄八郎、割田下総、唐沢玄蕃などの活躍は事実のようだ。

これら優能な真田忍者が輩出されたことにも、木曾義仲は無縁でない。日本の忍術は、大陸渡来人らが中国の孫子兵法を伝え、その「用問篇」を詳細に体系化した技という。諜報や奇襲など、戦いに不可欠な技術だ。

争乱が忍術発展に関わることをうかがわせる逸話は古代からある。聖徳太子は「志能便」という情報収集役を活用し、天武天皇も忍者を使ったという。源平争乱期の忍術では、平清盛が組織した京中治安維持の情報機関「かむろ」が一例。また源義経は、鞍馬山修業時代に鬼一法眼という修験者から忍術を授かり、部下の伊勢義盛が「義経流」を編んだと伝わる。もちろん、木曾義仲にも忍術使いに関わる伝承がある。研究者有名なのは、「戸隠流」創始者という家臣・仁科大助を駆使した伝説だ。

また家臣で滋野一族の望月氏は、甲賀流忍術の大家になったと伝承され、祢津氏も、戦国時代には「くノ一」を組織化していたといわれる。忍術に深く関わる修験道を見ると、義仲は御嶽行者とつながっているし、依田城周辺には渡来人が多数居住した痕跡がある。真田忍者へと連なる信濃忍術の原型は、義仲勢力やその戦いの中に、すでに表れているのだ。

上田の歴史・文化と義仲・幸村

「信州の鎌倉」と呼ばれる塩田平の文化にも義仲の存在は深く関わった。鎌倉幕府執権北条氏が一族を塩田城に配したのは、依田城に残った義仲勢力の監視のためと見られており、安楽寺や常楽寺、前山寺、中禅寺などにある鎌倉様式仏閣の建立要因になった。上田市街地の上田城跡や旧北国街道柳町、あるいは真田地域の古寺などは、真田氏が活躍した戦国期以降の史跡。義仲と直接的には関わらないものの、今ある上田の名所の多くが、義仲から幸村へ連なる地域の歴史を物語っている。

義仲と東信濃・丸子の武十

東信濃の武将の多くは、保元・平治の乱では鎌倉の源義朝に従っていた。それ以前から、源氏与党が多い土だったとされるので、最初は義仲の父・義賢に属したと見られる。父が討たれた時、斎藤実嫌が幼い義仲の庇護をまず依頼したのは佐久地方の武将とも伝わる。その説によれば、後に木曽へ移ったというので義仲と東信濃の縁は浅くない。元々の地縁・血縁が途絶えていかなかったことも、拳兵後に東信濃へ進出した要因かも知れない。

丸子地域。依田城への入城には、同族といわれる長瀬重綱が大役を果たしたと推測される。重綱の職「判官代は、地域紛争の調停などが役割。そんな事情から、依田城主・二郎実信や依田川右岸の有力者・丸子小中太、白鳥庄の海野行親、新治牧を勢力下に置く祢津貞行らの意見を仲立ちし、地域総意で義仲を迎えたのではないかろうか』東信濃の最有力者・海野氏らとともに、丸子の武士は義仲軍の中核をなした。後に鎌倉幕府が勢力監視のために塩田城を築いたと見られていることからも、義仲への忠誠のほどがうかがわれる。

木曾義仲(源義仲)は、平安時代末期の武将。清和源氏のうち河内源氏の流れを汲む。「旭將軍(朝日將軍)」と呼ばれた。幼名は駒王丸。父は源義賢。源頼朝・範頼・義経は従兄弟にあたる。

以仁王の令旨を受け信濃で挙兵し、丸子地域御嶽堂の依田城を拠点に、横田河原で平家方二万の軍を、兵力三千で破った。北陸道を進撃し俱利伽羅峠の戦いでは、平維盛軍十万を撃破。上洛した義仲は、長年の飢饉と平家の専横で荒廃した都の繁栄復活を期待されたが、食糧事情は好転せず、治安回復も滞った。皇位継承問題に絡んで後白河法皇から疎まれ、法住寺合戦に至って法皇らを幽閉。征夷大將軍となつたが、その十日後に頼朝が送つた源範頼・義経の大軍と激戦の末破れ、近江栗津の露と消えた。

義仲は武藏大蔵館付近(埼玉県嵐山町)の生まれといわれ、当地の鎌形八幡宮には産湯を汲んだとする清水が残る。西上野の多胡庄(群馬県吉井町)の誕生説もある。

「眉目形はきよげにて美男なりけれども、堅固の田舎人にて、あさましく頑なにおかしかりけり」「色白の眉目は好い男にて有りけれども・・・」(『源平盛衰記』『平家物語』)と、容姿端麗だった。

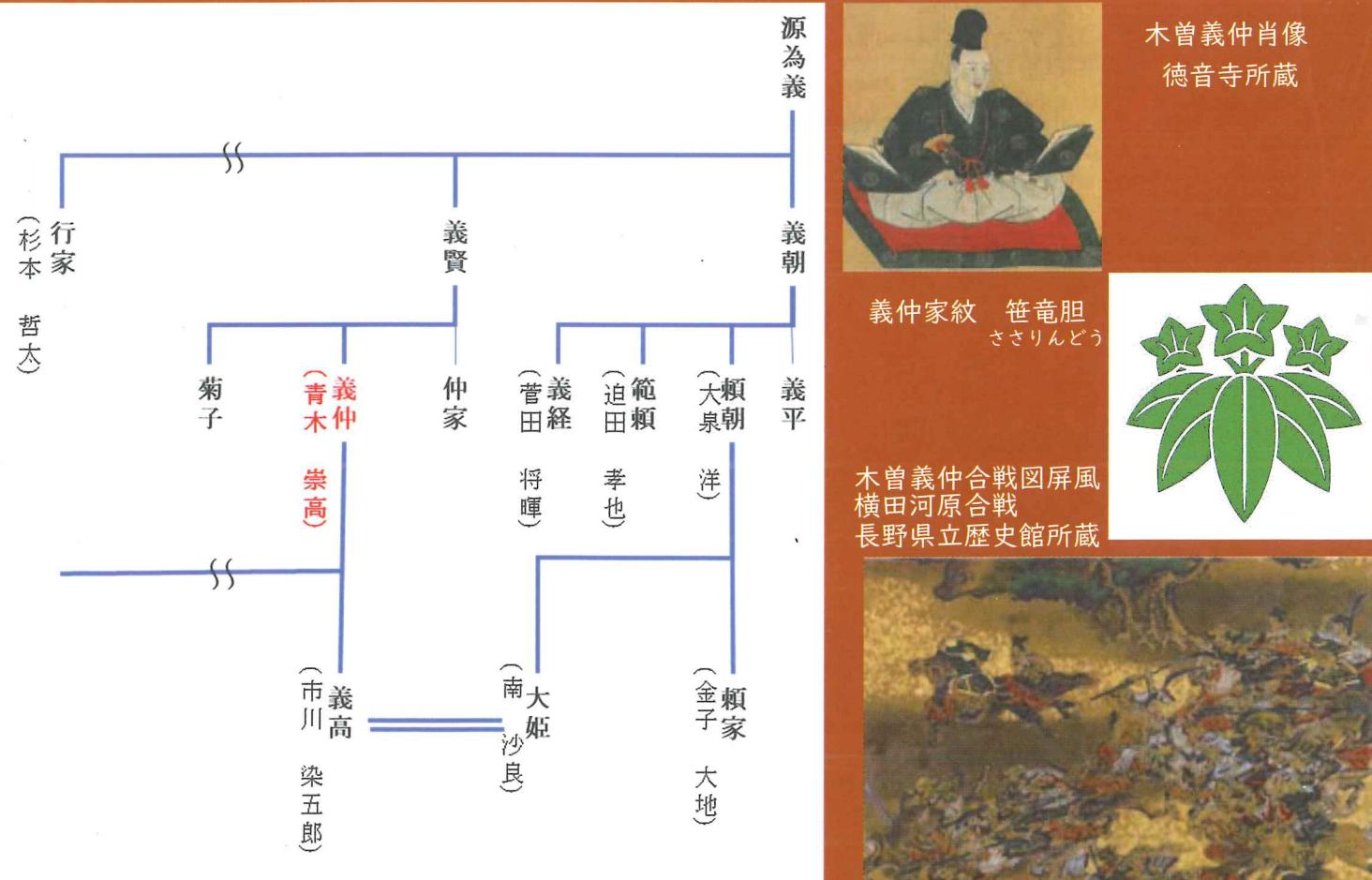
軍勢では、今井兼平や樋口兼光、根井行親、楯親忠ら四天王を筆頭に、信濃全域の武士が一丸主力として活躍。強力な騎馬軍団の編成には、依田実信や長瀬判官、丸子小中太、海野幸親、望月重綱ら、丸子をはじめとする東信地方の武士が大きく貢献した。軍師の大友坊寛明も海野氏という。

長野県歌「信濃の国」では、義仲を県の偉人の一人と詠う。

治承四年(1180)九月、以仁王の令旨を受け平家打倒に拳兵した際、拠点にした依田城は、上洛戦略の要衝だった。信濃全域と、かつて亡父の勢力下にあった西上野まで、騎馬で二日以内という好立地で、兵力を整えるのに最適だったからだ。受け入れた依田氏や丸子氏、同族の長瀬氏らにも支えられ、有力な上州武士も麾下に収めた義仲は、治承五年六月、越後から攻め寄せた平家勢力を破り、京を目指した。

挙兵した二十八歳の総大将・義仲。従った武将らも、多くは理想の実現に燃える同世代の若者だった。新たな社会を築こうと、純粋な夢を抱いて平家打倒に突き進んだ。

義仲を支えた三人の女性、巴と山吹、葵は、女武者でもあったという。葵は、北陸路の戦いに散った。巴は、栗津の戦いで主従が最後の数騎になるまで従う。山吹は、病で京に残ったが、義仲のもとへ駆けつける途中、鎌倉軍に討たれたという。



（カッコ内はNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』配役、敬称略）

木曾義仲・巴御前ゆかりの地
上田市

上
田
記



義仲つきと田つき

イラスト：長野県立大学
グローバルマネジメント学



① | 美の湯 (大湯)

呼ばれていたことがあります。
外湯（共同湯）では珍しく露天浴槽があり、内湯に比べてお湯の温度が低めなのでゆっくりとお湯につかりたい方におすすめです。



A map showing a river system with a red line indicating a proposed route or boundary.



雷義仲奪兵の地
源氏の武將 旭將軍

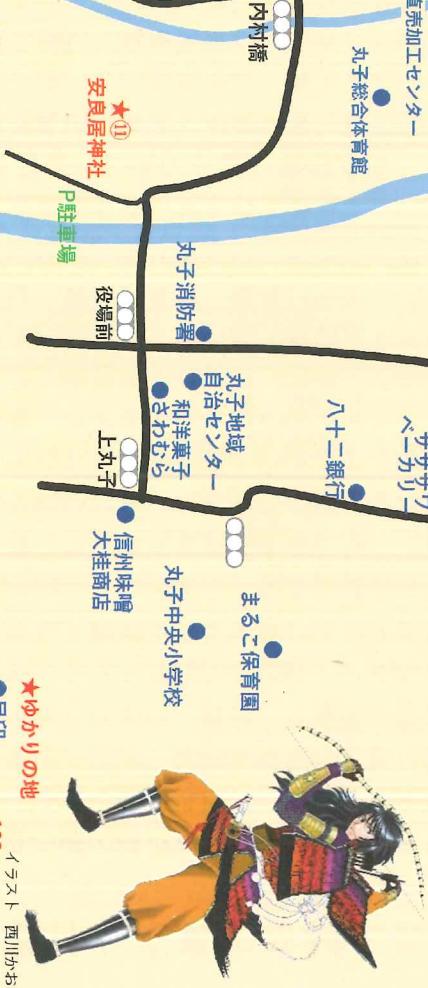


木曾義仲・巴御前ゆかりの地 丸子地域

この大標柱は、平成3年（1991年）
御嚴神
今から31年前に丸子町教育委員会が当時「木曾義仲
復讐の会」が結成されたことを機に、建立されたもの
です。

高さ7m、幅0.9mの鉄骨鉄板張りの三角柱で、白地
に黒い文字がくっきりと浮き出て、遠くからもよく目
立ち、行き交う車からも一目でそれとわかる立派な標
柱です。

義仲公や巴御前、そして行を共にした郷土の武士た
ちが織りなした壮大な歴史とロマンを求めて、拳銃の
地を散策する市内外の人々の道しるべになっておりま
す。
あさつゆから1,600m 徒歩約20分





①荒神宮（參上神社）

參上神社由来より
義仲公が荒神宮に戦勝を祈り
今井藏人豊成に永代保護奉仕
を命じた。



②小牧城跡

下の城 標高639m
上の城 標高712m
木曾義仲の要害として築かれた
山城といわれる。



③飯沼氏本拠地(中城館跡)

館跡は、東から南に約250m、
幅80mの広さと推測されてい
る。現在館跡と思われるところは、全て畠と宅地である。



④愛宕神社

横田河原の合戦の出陣を前に、
合戦を占うために居並ぶ義仲
臣下の武将を前に弓の名手、
海野行親が社殿前で笠懸を行
い、次々と矢を命中させた。



⑤依田神社

依田次郎実信は義仲に依田城を
明け渡し、以降一族を挙げて義
仲と行動を共にしたと伝わる。
依田氏を祀られる御嶽堂地区の
郷社。伝統神事の獅子舞も残る。



⑥正海清水

義仲軍の飲用水だったと言わ
る清水。義仲公の子・清水義高
の「清水」はこの地にちなむと
いう。



⑦依田氏高築地館跡

依田次郎実信が館を譲って
移り住んだといわれる。この居
館を中心に家臣団の屋敷があ
ったといわれる。



⑧小鍋立の湯跡

依田城に連なる麓にわいていた
温泉
皮膚病や火傷に効くといい鉱泉
宿があったといわれる。



⑨長瀬氏本拠地

上長瀬の高台にあったといわれ、
伝承の跡地は現在「五穀山」と
いう山号の寺になっている。境
内に館跡の石碑がある。



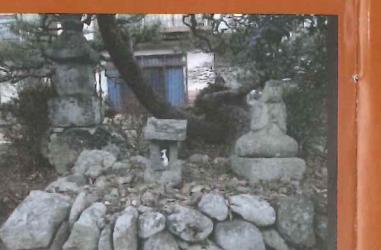
⑩巴・山吹の五輪塔

近江の栗津で義仲公が討たれた
後、この地に逃れて名を隠して
住んだ義仲の家来が、これを建
てたと言われている。



⑪きつねの湯

平井寺には、木曾義仲の時代に
隠し湯があったと言われ旅館が
三軒ぐらいあった。現在、畠の
中に温泉の出口と湯舟があり奥
にお稻荷さんがある。



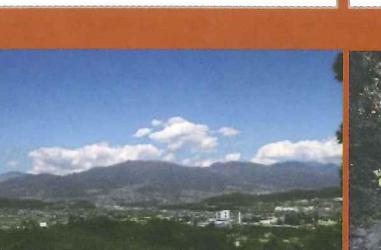
⑫手塚太郎金刺光盛五輪塔

義仲に従った有力な武将の五輪
塔。手塚治虫の祖先と言われ、
もともと近くの光盛寺に江戸時
代の末期まであったものを、廢
寺後に民家の庭先に移した。



⑬義仲館跡

義仲公の屋敷跡。城山北麓の台地上にあるこの館跡は依田城とも呼
ばれ「平家物語」の中に出でくる「木曾は依田城に有りける
が・・・」の依田城はここであると推定されている。



⑭御嶽神社

依田城山麓の義仲館跡の近
くにあり、御嶽信仰との関
連が指摘されている。



⑮巴御前 お歯黒の池

巴御前が尼僧となり、湧き出る
泉で身を清めるため「お歯黒」
を洗い落としたと伝わる。



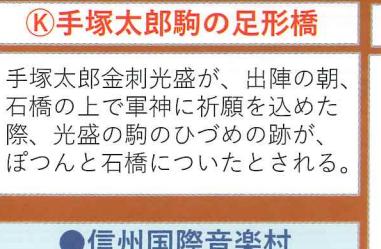
⑯無量寺 薬師像 (元木の地蔵)

平安時代末期、木曾義仲の武将、手塚太郎金刺光盛が守り本尊と
して手塚の壇口（せんげぐち）に應慈山光盛寺を建立し本尊として安置。
その後光盛寺は廃寺となり、明治2年（1869年）に無量寺に地蔵を移した。



⑰手塚太郎駒の足形橋

手塚太郎金刺光盛が、出陣の朝、
石橋の上で軍神に祈願を込めた
際、光盛の駒のひづめの跡が、
ぱほんと石橋についたとされる。



⑱木曾義仲供養碑

八木沢天満宮内に高さ1.2mの
碑がある。正面に「朝日將軍義
仲宣公大居士」とあり、側面に
は「五百五十年回向」と刻まれ
ている。義仲の没後550年と言
えば、江戸時代中期、八木沢村
の治郎左衛門という方が建てた
もの。碑には天満宮を氏神とし
ていた小松氏の家紋が入ってい
ますが、治郎左衛門は、義仲と
運命を共にした手塚太郎の子孫
で小松姓を名乗っていたよう。



⑲依田城跡 義仲居城

丸子地域御嶽堂の集落後方に屏風のようにそそり立つ金鳳山まで含
めた一帯。約840mの頂を「城山」と呼ぶ。依田城跡からの景観は
壮大な眺望である。



⑳岩谷堂観音 義仲桜

岩谷堂観音がある宝蔵寺は、義仲公が戦勝祈願したと伝わる、
慈覚大師開基の古刹。ここを訪れた義仲公が馬で駆け上った
という「馬大門」や名木「義仲桜」などがある。



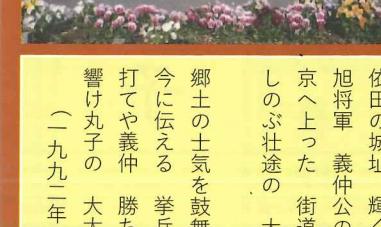
●丸子農産物直売加工センター あさつけ

依田川の清流と烏帽子岳、浅間山
を望む自然豊かな山間にある農産
物直売加工センター「あさつけ」
は地元農家が栽培した農産物・加
工品・民芸品が店内、所狭しに並
び、お客様に満足して頂ける店づ
くりを目指しています。
皆様のお越しをお待ちしています。



●信州国際音楽村

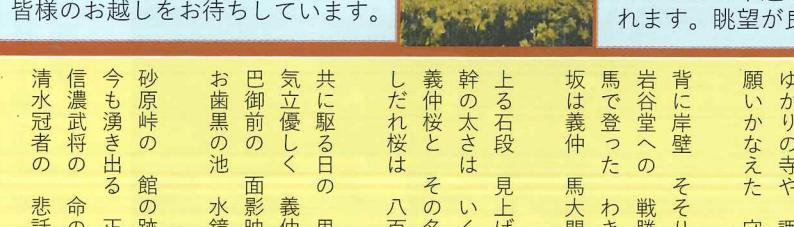
浅間山麓を見渡せる270度のパノラマ！
カラマツの木造ホールは、あたたかく迎えてく
れます。眺望が良い公園が魅力的です！！



郷土の士気を鼓舞した故事を
今に伝える
打てや丸子の
響け丸子の
大太鼓
(一九九二年
平成四年)

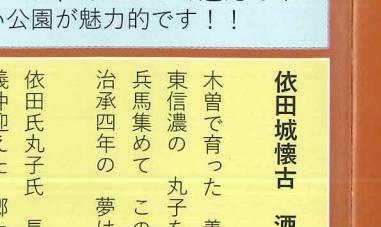
依田の城址
旭将軍 義仲公の
京へ上った
街道ごとに
しのぶ壮途の
大ロマン

輝く大河
煙草の跡に
お歯黒の池
砂原峠の
お歯黒の池
信濃武将の
清水冠者の
命の水も
悲話遺す



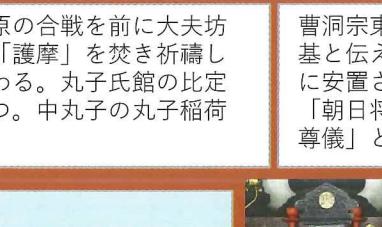
⑪安良居神社

大鳥居には八幡宮の額が掲げら
れ源氏との関わりが強く、義仲
公が依田城館に逗留中に源氏の
氏神である八幡大菩薩を祀り創
建したと伝わる。



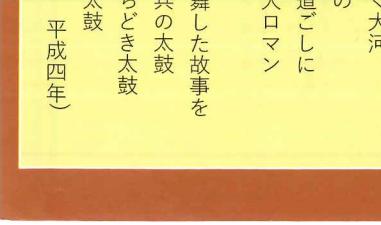
⑫丸子城跡

義仲公の挙兵に従ったとさ
れる丸子氏の居城。
現在の物見櫓は、平成2年
度に復元されたもの。
標高684m



⑬開戸城跡

横田河原の合戦を前に大夫坊
覚明が「護摩」を焚き祈禱した
と伝わる。丸子氏館の比定
地の一つ。中丸子の丸子稻荷
の一帯。



●シャトー・メルシャン 梶子ワイナリー

世界最高のワイナリーを選ぶ
「ワールド・ベスト・ヴィンヤ
ード2021」に一昨年に続き33位に
入ったアジアを代表するワイナ
リー是非お越しください！！



曹洞宗東松山長福寺は義仲の開
基と伝えられ、寺宝として本堂
に安置されている分け位牌には
「朝日將軍木曾義宣公大居士
尊儀」と刻まれている。

